

巻頭言

日本惑星科学会は、1992年の発足以来十数年が経過しています。当学会は、「惑星科学及びそれに関連する分野の学術研究を振興すると共に、研究成果を広く社会に還元し、また、国際的な計画推進の一役を荷うため」（設立趣意書）に設立されました。設立の目的に沿って当学会はこれまで着実に歩んできましたが、一方では、力不足な面も指摘されています。ここで、設立の目的に立ち返り、具体的な目標を設定して活動して行きたいと考えています。

現在当学会が緊急に対処を迫られている事項は、

- (A) この春に発足を予定されている「地球惑星科学連合」への対応。これはまた、新日本学術会議と学会との連携の在り方にも係ります。これらは、惑星科学会の対外連携の課題です。
- (B) 現在JAXAにおいて長期ビジョン／中長期戦略の検討が進んでいます。わが国の惑星探査・惑星科学の将来計画の検討作業において、惑星科学会が意見を述べていくことは大切です。会員の意見を集約して、わが国の将来計画立案に参画することは、学会が関連分野の振興に貢献するために、取り組むべき課題です。
- (C) 学会設立当初より、学会の財政基盤の弱さが指摘されてきました。このため学会独自の企画や研究成果の還元事業が実施できない状況です。財政基盤の強化が、学会の内政の最重要課題です。

惑星科学会の存在感が、会員のみなさんから見て希薄で有ると言う話を聞きます。外から見ても、よく分からない組織だと言う指摘も有ります。上記の緊急事項に的確に対応できる組織で、かつ、会員のみなさんにとって役に立つ組織に変貌したいと思っています。

「惑星科学」の基礎知識や最新のトピックスが、学会のウエブを見れば理解できるようになれば、会員になりたいという人が増えるでしょう。「惑星科学」の講演や解説の依頼を、広く受け付ける窓口が学会に有れば、きっと利用してもらえるでしょう。会員の提案や助言が、気楽に伝えられるチャンネルも創りたいものです。進化しない組織は、新しい要求に対応できずに忘れられるでしょうし、会員ひとりひとりが大切だと意識しない組織も消えてしまうでしょう。

「惑星科学」は21世紀の総合科学として、ますます重要になってきます。みなさんの協力を得て、この学会が、設立の目的に向かって進んで行く事を願っています。

向井 正（日本惑星科学会第8期会長，神戸大学・大学院自然科学研究科）